



小田小だより

平成26年 12月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校



自分の名前は好きですか？

～人権週間に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

「室井滋」という方がいます。この名前を読んで、男性でしょうか？女性でしょうか？と尋ねられると、えっ？と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「むろいしげる」と読みます。女性です。テレビによく出ている女優さんですから、ご存じの方も多いことと思います。その方が書いた絵本があります。『しげちゃん』（金の星社）という本です。

この絵本の主人公は、「しげちゃん」。「滋（しげる）」という女の子です。つまり、室井さんは自分のことを絵本にしたのです。

しげちゃんは、男の子みたいな自分の名前がいやだったのでしょう。違う名前を考えてみたり、お母さんにいやだと言って泣いてしまったりしました。でも、お母さんに“滋”という名前に込められた願い、思いを教えてもらい、自分の名前がだんだん好きになっていきます。名前に、どれだけ家族の思いや願いが込められているのかが理解できたのです。室井滋さんは、女優になっても芸名を付けず、そのままこの名前を使っています。今も、両親にもらったこの名前が一番好きだと言っています。

私の教え子の一人に、米倉涼子さんがいます。米倉涼子さんが4年生の二分の一成人式の時に、『涼子』という名前にした理由を教えてもらったので、お父さんとお母さんのその気持ちを大切にします。たとえ芸能人になっても名前は変えません」と書いた手紙を母親の前で読み上げたことを覚えています。当時は、こんなに有名な女優さんになるとは思いもしませんでした。小学校4年生のときのあの思いを、もしかしたら今も胸に秘めながら頑張っているのかもしれない。彼女のお母さんは随分前にお亡くなりになりましたが、私はテレビで観るたびにお母さんの分まで応援しています。

私が5年生の担任をしていたときのことで、総合的な学習の時間に、高齢者の方々が集う地域ケアプラザとの交流をしたことがありました。その職員の皆さんは、おじいさん、おばあさんたちを、「〇〇さん」と名前と呼んでいました。そして、交流する子どもたちも顔と名前を覚えて「〇〇さん」と呼ぶようにご指導を受けました。するとどうでしょう！確かに親しみが湧き交流がどんどん深まっていくのです。放課後や休日にも訪問する児童が出てくるようになりました。

その後もいくつかの高齢者施設とかかわる機会をいただきましたが、どの施設でも名前と呼んで、一人ひとりをとっても大切にしていました。

私の父親が田舎の県立病院に入院しているとき、看護師さんたちは父を「照さん」と名前と呼んでくださっていました。その父は入院したまま病院で亡くなったのですが、亡くなった父に向かって、看護師さんたちが、「照さん、頑張ったね」と次々に声をかけてくださいました。心を込めて看護して下さっていたことを、改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

名前は、お父さん、お母さんや家族の思いや願いが込められている大切なもの。人の名前を大切にすることは、その人を大切にすること。自分の名前が大切にされることは、自分が大切にされていること。どうか、保護者の皆様、お子さんの名前に入れた思いについてもう一度じっくり語って聴かせてあげていただけませんか。

1948年12月10日。国連で、世界中の人たちが安心して幸せに暮らせるようにとの願いで、「世界人権宣言」が提案され、その日を「世界人権デー」としました。世界中で記念の行事が行われます。日本ではこの日に先立つ1週間を人権週間とし、小田小学校でも人権について話し合いをし、理解を深めていきます。人権を守るために、学校、家庭、地域で、まずは自分の名前や人の名前を大切にすることを心がけてみてはいかがでしょうか。

